

地球のこども

CHILDREN OF THE EARTH

特集

自然学校で
ラーケーション&
ワーケーションしよう！



No.217

夏号

2021

地球のこども

- 02 環境教育人を訪ねて 第1回 遠藤隼さん
保全×遊び×教育の自然学校と生き物好きな子どもたち

特集 自然学校でラーケーション & ワークーションしよう！

- 05 楽しみながら学ぼう！自然学校でラーケーション！ワークーション！
増田 直広（鶴見大学短期大学部）

- 07 森のワークーション！
上田融（いぶり自然学校）

ラーケーション&ワークーションのできる自然学校紹介

- 09 海も山も満喫できる学びの場！
千葉自然学校

- 10 全国に多数の活動拠点あり！
国際自然大学校

- 11 都市公園・自然公園などの拠点がたくさん！
自然教育研究センター

- 12 高原でのびのび！
キープ協会

- 13 森で遊ぶ 森に泊まる！
トヨタ白川郷自然学校

- 14 冒険・暮らし体験で大きな成長！
ホールアース自然学校

- 15 JEEF の1年 ～これまでとこれから～

- 17 企業インタビュー：日本水産株式会社
未来を支える子どもたちの発見や体験を応援したい

- 21 企業インタビュー：三菱地所株式会社
丸の内からSDGs！大手町・丸の内・有楽町地区を舞台に
サステナブルなアクションを推進する「大丸有 SDGs ACT5」

- 23 阿部治さん 退職記念インタビュー
これまで・これからの環境教育

- 25 自然学校の台所
シンプルなおはんと循環型の暮らし体験 【塚原 茉衣子（くりこま高原自然学校）】

- 26 考えるっておもしろいかも！？
第33回 おかげさまで20周年！ 【鴨川 光（JEEF）】

- 30 支援のご案内



表紙写真
NPO 法人千葉自然学校

環境教育人を訪ねて 第1回
遠藤 隼さん (サシバの里自然学校 校長)

保全×遊び×教育の自然学校と 生き物好きな子どもたち



日本でも屈指の鷹・サシバの繁殖地がある、栃木県市貝町。青々とした田んぼの広がる里山風景の中に、築150年の大きな古民家がある。そこを拠点として活動するのが、サシバの里自然学校・校長の遠藤隼さん。自然を通した“人”づくりの仕事をしている。

「うちにくる子どもたちは、みんな“生き物好き”のレベルが高いんですよ！」

目を輝かせて隼さんが語ったのは、自然学校に参加する子どもたちのこと。グッズを自作したり、ワークショップを主催してみたり、細部まで表現された絵を描いたり、とにかく個性派ぞろい。その理由の1つは、サシバの里自然学校が保全を柱の1つに据えているからだ。長年猛禽類の調査や自然環境の保全に取り組む父・孝一さんと、子ども向けの環境教育や普及・啓



発を行う隼さんがお互いの特技を活かし、5年前に「保全×遊び×教育」の3本柱を持つ自然学校を開設した。

大学卒業後の隼さんは、ホールアース自然学校で子どもたちへの環境教育の手法を身につけた。その後自分の世界観を広げるため、自転車世界ひとり旅へ出発。たくさんの人や文化と出会った。しかし心の中には、「自分はいつたい何屋を目指しているのだろうか……」という疑問が常にあったという。チャレンジ的な生き方をする隼さんの原点は、子ども時代にさか

のぼる。出身は宇都宮市。ほぼ毎週友達と釣りに行く隼さんも、“生き物好きな子ども”の1人だった。釣りの合間に探検したり、焚火をしたり。その頃、ブラックバスの罾猛さを目の当たりにした。

「これが川にいたら日本の魚がヤバイ」、子ども心に思った。これらの気づきと孝一さんの活動を見て育ったことが、今の隼さんを作り上げているのだろう。

「子どもたちが自然や生き物と出会い、それらに愛着を持つて接することの出来る場を整えてあげることが、僕らの仕事だと思っています」
今の隼さんは、まっすぐ前を見て、誇りをもつて活動している。



新型コロナウイルス感染症拡大による
生活様式の変化により、休暇と組み合わせ

自然学校で ラーケーション & ワーケーション※ しよう!

せつつ普段とは違う場所で仕事をしたり
学んだりする、ワーケーションやラーケー
ションが注目を集めています。

場所や過ごし方が変わることで、日常
生活の中で狭くなっていた視点や、閉じて
いた感覚が広がっていく―自然学校が提
供してきた体験的な学びの場が、どんど
と閉鎖的になっていく社会の中で新しい
価値をもちはじめています。

今号では、自然学校におけるラーケー
ション、ワーケーションの可能性を紹介し
ます。

※ ラーケーション・ ワーケーションとは

学び（ラーン learn）と休暇（バケーション vacation）
仕事（ワーク work）と休暇（バケーション vacation）
を組み合わせた造語。観光地やリゾート地など普段暮らして
いるところと違うところに滞在しながら、学んだり働いたり
する過ごし方をいう。

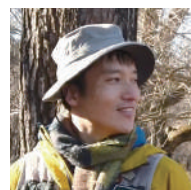
楽しみながら
学ぼう!

自然学校で
ラーケーション&ワーケーションしよう! 

自然学校でラーケーション! ワーケーション!

増田 直広 (ますだ なおひろ)

鶴見大学短期大学部講師。環境教育の視点を持った保育者養成に奮闘中。キープ協会客員主席研究員、都留文科大学/日本大学非常勤講師、立教大学 ESD 研究所客員研究員、日本環境教育学会事務局長・理事などを務める。専門領域は、環境教育、インタープリテーションなど。



新型コロナウイルス感染症は、私達の暮らし方や働き方に対して多様な面で大きな変化をもたらしています。それに伴い、本特集のテーマである「ラーケーション」(学び×休暇)や「ワーケーション」(仕事×休暇)などの新しい概念が生まれています。ここでは、ラーケーションおよびワーケーションが自然学校としても相性が良いことをお話します。

自然学校の歴史

自然学校とは、「自然体験活動や地域の生活文化に関わる地域づくり活動などの多様な教育的な体験活動を通して、持続可能な社会実現に貢献する施設や団体、活動」と考えることができます。日本でその概念が生まれたのは1980年代前半であり、この頃今回の特集に登場するホールアース自然学校や国際自然大学校が設立され、キープ協会では環境教育事業部が立ち上がりました。

1996年に開催された「自然学校宣言シンポジウム」では、日本には76校

の自然学校があると報告されています。その後、数回に渡って関連調査が行われていますが、2002年の第3回自然学校全国調査では約2000校が、2010年の第5回自然学校全国調査では約3700校が活動していると報告されました。自然学校数が増えているのは、その概念も広がってきているからと言えるでしょう。かつては、自然体験活動を提供する団体や施設を自然学校と呼んでいましたが、近年では持続可能な社会づくりに貢献する団体や施設と考えられるようになったことも、自然学校の拡大につながると考えられます。

自然学校で学べること

自然学校では、自然体験活動をはじめ、農林水産業体験活動、地域の生活文化体験活動など多様な体験を通して地域や地球について学びます。対象はお子さんから大人まで、個人を対象とすることもあれば団体を対象とすることもあります。

キープ協会では、環境教育指導者養



成事業を実施する際に、①体験から学ぶ、②お互いから学ぶ、③楽しみながら学ぶの3つを大切にしたいこととして掲げています。これらはそのままラーケーションにおける学び方と言えるでしょう。参加者の皆さんは貴重なお休みを使って、しかも参加費を負担いただいてプログラムに参加されます。元を取ろうという気持ちもあるのですが（笑）、皆さんの表情からは「学ぶことは楽しい！」という気持ちが伝わってきます。

ここで、自然学校が楽しい学びを創り出せる理由をいくつか挙げてみます。

●発見があること

地域の自然や文化を学ぶことによって、発見や気づきをたくさん得られる。また、自然学校での体験を通して、自身の居住地でも発見が促される。

●仲間がいること

同じことに興味関心を持つ仲間と共に過ごすことで、学びも楽しさも倍増する。

●地域や地球に貢献できること

学んだことが地域や地球に貢献することや持続可能な社会創造に寄与することにつながり、自己肯定感を得られる。

楽しい学びはラーケーションそのものであり、ワーケーションで自然学校を訪れた人にとっては、仕事のための活力や気分転換になるはずです。

現在、自然学校は新型コロナウイルス感染症により厳しい状況にあります。その中でもそれぞれの創意工夫やネットワークの力を通して、活動を続けています。皆さんがラーケーションやワーケーションとして自然学校を訪ねることは、ご自身の学びに加えて、自然学校の応援にもつながります。ぜひお出かけください。

私は持続可能な地域づくりに関する実践と研究に取り組んできました。近年では、自然学校が持続可能な地域づくりの拠点であるという考えに基づいて、自然学校を訪問しています。各所を訪ねる度に感じるのは、「自然学校は地域も地球も人も元気にする！」ということ。そんな素敵なおところで皆さんも過ごしてみませんか？

森のワーケーション!

上田 融 (うへだ とおる)

岐阜県生まれ。子どものキャンプリーダー、小学校教諭、社会教育主事を経て、NPO 法人ねおすに参画。現在は NPO 法人いぶり自然学校代表。森のようちえん、木育、全国植樹祭跡地「苜蓿・和みの森」管理、胆振東部地震の災害支援を経て、ワーケーションに取り組む。



当方が使わせていただいている「イコロの森・森の学校」でのワーケーションの実施を考えた時に、一番多くの議論をしたのは「ワークをどう考えるか」でした。「ワーケーション」と検索すると、海辺や湖畔など、綺麗な景色を前にパソコンを使つて仕事している、そんなものが多いのですが、果たしてそれが理想的なワーケーションのワークシーンなのか? という問いから始めたことを記憶しています。私たちは、ワークは「ビジネス」と「暮らし」の2つで構成されている、と考えます。

「ビジネス」について

まずビジネス。世間にはいろいろな種がありますが、ワーケーションという手法を取り入れられる業種はビジネスである、とあえて業種をしぼることで、施設のあり方を考えていきました。ビジネスパーソンが展開する仕事は何か? と考えると、パソコンに向かって何かをすることだけではありません。クライアントとの商談、新規開拓、アイデア創出、

異業種との交流などなど、かなり高度なコミュニケーションと対話をする場が必要です。それを、都会の密室で行うのではなく、誰もいない森の中で、快適な距離感を保ちながら商談を進めるような場と機会を用意するべきではないか、と考えました。そこで、まずは心地よいミーティングスペースと、飲食スペースを確保し、その上でオフィスワークを促進できる通信環境や事務ツールを揃えていきました。

「暮らし」について

そして、もう一つのワーク「暮らし」は、滞在するにあたって必要なものを作るべく自給的に取り入れるスタイルとしました。薪割りや樹液採取、馬搬、焚き火での自炊など、そこに滞在するために必要な燃料や食べ物を、自分たちでまかない、使う、あるいは家畜の世話をする、という本来の生活様式を積極的に取り入れることで、森林の整備促進と滞在者の健康増進、ストレス解放を促しています。

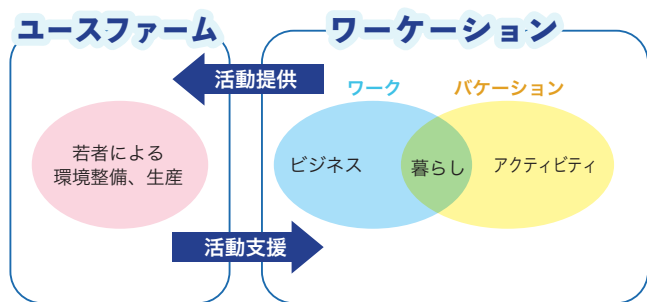


そしてもちろん、北海道のフィールドを堪能することができ、アクティビティもバケーション側に位置付けて、私ども自然学校が本来展開してきた自然体験活動の提供を通して、そのダイナミックスを実感してもらう場と機会を用意しています。

ユースファームとは？

しかし、ここまでくると、ワーケーション利用者を受け入れ、少数であるが故に、かゆいところに手が届くようなサービスを提供するにはかなりの人員とコストがかかります。私たちは、もう一方で

「ユースファーム」という自分探しをしている若者たちが滞在し、彼らが里山での日々の活動を通して何かしらの産品やサービスを創出する、という仕組みを作り上げ、そのユースファーマーたちにワーケーションを推進してもらおう、という両輪で始



とありますが、元々「森の整備を利用者によって推進させる」というミッションを、子どもや親子の自然体験活動という手法で展開してきたいふり自然学校は、コロナ騒動をきっかけとして、ワーケーションという新たな手法で、対象者の学びや気づきを促進し、北海道の環境保全と持続的な利活用に寄与していきたいと考えています。

動することとしました。ユースファーマーにやってくる若者たちは、最初は迷える子羊のように怯えています。しかし、多くのワーケーション利用者と交流を図ることにより、自分の作ったものが評価されたり、あるいは執事（パトラー）として細かな気配りをする能力を開花させたりと、サービスの提供側を経験することで自信や、大きな学びと気づきが生まれるような体制をとっています。

海も山も満喫できる学びの場！

千葉自然学校

<https://www.chiba-ns.net/>

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7F

TEL：043-227-7103 FAX：043-202-7237



都心からほど近く、豊かな里山・里海の自然環境がある千葉県房総半島。そこで活動する千葉自然学校は、自然体験や企業研修、指導者養成事業など、子どもから大人まで自然を通じた学びの場を提供しています。経験豊富なスタッフに加え、地域文化を守り、自然との共存・共生の知恵を持つ地域の指導者たちも多くいるため、多様なプログラムが実施されています。（団体・家族での宿泊や体験のコーディネートも可能です。）

南房総市大房岬自然の家

千葉県南房総市富浦町多田良 1212-23

南房総国定公園大房岬内にあり、青い海と緑の木々に囲まれた自然環境で宿泊や体験ができます。公園入口から見える海は水平線まで見渡せて、太い木々の間を抜けると自然の家へ到着します。オオトリ浜やタイムイ浜では磯遊びや釣り、マテバシイの樹海の中ではバードウォッチングや植物観察昆虫観察など、海と森の両方を味わえる贅沢な時間が過ごせます。

千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県千葉県君津市笹字片倉 1661-1

東京ドーム4個半にもなる広大な敷地には自然豊かな森が広がり、シカ、ウサギ、イノシシ、サルなどたくさんの野生動物が暮らしています。里山の中で鳥のさえずりや木々の葉擦れの音を聴きながら、ゆったりした時間を過ごせます。プラネタリウムや敷地内の里山をめぐるラリーなど、知的好奇心をくすぐるプログラムも充実しています。

古民家ろくすけ

千葉県南房総市平久里下 1441

映画やテレビ撮影に使われることもあるかやぶき屋根の古民家ろくすけは、自然や田舎体験の場として整備。子どもたちのキャンプや、里山整備や耕作放棄地を使った畑仕事などが体験できます。周囲より高い位置にあるので、町を一望できる景色も見ごたえがありますよ。田舎暮らしの体験を通して、歴史や文化、先人の知恵が学べます。

緑あふれる森と
潮風かおる海の体験

房総は海・森・川と体験の場が選び放題なのが、何よりの魅力です。館山湾に突き出た岬の「大房岬自然の家」、房総半島のほぼ中央の緑豊かな里山の「君津亀山青少年自然の家」、かやぶき屋根の古民家「ろくすけ」を主な拠点に、川ではカヌー、海では釣り、森や田んぼでは生き物観察、夜には満天の星空を見ることが出来ます。



全国に多数の活動拠点あり！ 国際自然大学校



<https://www.nts.gr.jp>

〒201-0004 東京都狛江市岩戸北 4-17-11

TEL：03-3489-6320 FAX：03-3489-6921



全国に活動拠点のある 自然学校

国際自然大学校は全国の拠点で自然体験活動・野外教育プログラム・環境教育プログラムを、年間を通して企画運営しています。東京本校・日野春校（山梨）・関西校（京都）・福岡校・沖縄校のほか、公の野外教育施設の管理運営にも携わっています。ホームページにある事業内容から、「公の野外教育施設の管理運営」を

頭で考える前に「感性で動く」子どものうちに、なるべく多くの体験をさせてあげてほしい。そんな想いを持って活動するのが、NPO法人国際自然大学校です。東京・山梨をはじめ全国に拠点をもち、3歳以上が対象の森のようちえんプログラムから大人の自然体験など、学校や家庭などではできない自然の中での様々な体験活動を通して、子ども達の社会性（コミュニケーション力や協調性など）や人間力（思いやりや優しさなど）を伸ばしていくことを目指しています。

ご覧いただき、ぜひお近くの施設を照会してみてください。

子どもが成長する 通年型プログラム

キャンプなどで子どもに自然体験をさせてあげたいと考える方も、多いのではないのでしょうか。ただ、都市部で生まれ育って自然体験が少ない保護者の場合、不安もあることでしょう。

国際自然大学校では主に年中さん以上の子ども（森のようちえんプログラムの対象は3歳から可）を対象として、通年型の自然体験プログラムが実施されています。1年を通じて同じ班のメンバー・同じスタッフで活動を共にすることで、活動のたびに経験を積み重ね、友だちや仲間との関わりを深めることができます。子どもたちが自然で学ぶ日は、大人もワークションする日にしてみるのはいかがでしょうか？ もちろん、単発のプログラムも多数ありますし、「子ども一人だけで参加するのはちょっと不安」そんな皆さんに向けての親子で

参加できるデイキャンプもあります。

大人も学ぶ体験の場

国際自然大学校では、大人向けのプログラムも実施されています。田植え&稲刈り、手作り味噌と大豆料理づくり等、自然の中で遊び・学び・体験することを通して、里山文化を感じる活動です。ゆつたりした時間の中で、自分の生活をひとつ丁寧に見てみるのはいかがでしょうか。

チャレンジできるプログラム

新しい何かに挑戦してみたい！という方には、「100km チャレンジハイク」がおすすめ。24時間で100kmを仲間と共に歩き切るというチャレンジです。様々な葛藤の末に体感できる達成感、自信、仲間の大切さや己への気づきなど、「人生の縮図」と呼べる経験が待っています。



※実際の事業実施状況や募集状況は、HPをご覧ください。

都市公園・自然公園などの 拠点がたくさん！

自然教育研究センター

<https://www.ces-net.jp/>

〒190-0022 東京都立川市錦町 2-1-22

TEL : 042-528-6595 FAX : 042-528-6596



足立区都市農業公園



<https://www.ces-net.jp/toshino/index.html>

〒123-0864 東京都足立区鹿浜 2-44-1

TEL:03-3853-4114

毎月第1・第3水曜日（休日の場合は翌日）年末年始 休館

荒川河川敷沿いの広大な敷地内には、ピジターセンター・古民家・水田・畑・レストハウス・人と自然の共生館・工房棟・昔の農機具展示室があり、たくさんのプログラムが提供されています。園内には芝生広場や荒川土手に50種290本の桜があり、3月から4月下旬まで楽しめます。園内の田んぼや畑では自然の仕組みを活かした無農薬無化学肥料での栽培を行い、自然教育普及や収穫物の園内マルシェでの販売を行っています。



1989年の設立以来、自然公園におけるピジターセンター・ネイチャーセンターなど19施設の拠点運営、自然体験プログラムの企画・実施等を行っています。
今回は足立区都市農業公園とさいたま緑の森博物館とをご紹介します。

募集予定のイベント情報

- ・畑のようちえん 小さなお子さんと保護者の方が一緒に土や植物に触れる体験ができます。（対象 2歳以上の未就学児とその保護者 定員 10名 要申込 参加費 1組 200円 要申込）
- ・自然さんぽ（土日（月に1.2回） 対象 どなたでも 無料 定員 10名 先着順）

イベント情報や
申し込み方法等は
事前にホームページで
ご確認ください。

さいたま緑の森博物館



<https://saitama-midorinomori.jp/>

〒358-0014 埼玉県 入間市 宮寺 889-1

TEL/ FAX : 04-2934-4396

月曜・祝日翌日（土日・祝日を除く）・年末年始休館

狭山湖と多摩湖・二つの貯水池をたたえる狭山丘陵の北西部に位置しています。狭山丘陵は1960-80年代にレジャー施設や宅地化による急激な開発が進みました。丘陵を保全し、雑木林や湿地も含む里山そのものを野外展示とし、貴重な生き物を守りながら身近な自然のすばらしさを実感できる施設として、1995年にオープン、昨年25周年を迎えました。



募集予定のイベント情報

- ・親子はじめての自然観察会（対象 小学生と保護者 定員 10名 参加費 1人 100円 要申込）
夜の生き物観察 7/31（土）17:00～20:00 夜の雑木林を懐中電灯を手に探検します。
夏の昆虫 8/22（日）9:30～12:00 チョウやバッタ、甲虫などを探し、触れてみたり観察したりします。
- ・泊まらない子どもキャンプ「里山の力で1日過ごそう」 7/29（木）8/4（水）両日 10:00～20:00
ベースキャンプを作ったり、遊んだり、火をおこしてご飯を作ったりします。真っ暗になるまで過ごして、里山の自然を昼から夜まで満喫！（対象 小学3～6年 定員 10名 参加費 1人 2000円 要申込）
- ・里山体験教室「ため池のかいぼりをしよう」9/11（土）（対象 小学生以上 定員 15名 参加費 1人 100円 要申込）

高原でのびのび！ キープ協会



<https://www.keep.or.jp/>
〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545
TEL：0551-48-3795（環境教育事業部）
FAX：0551-48-3228



山梨県立八ヶ岳 自然ふれあいセンター

火曜日休館（火曜日祝日の場合は開館、翌日休館）

清里高原や八ヶ岳エリアの自然や文化について、楽しく遊びながら学べる展示があります。森に興味を持ってもらえるような、森に一步踏み出したくなるような、「森の入り口」となる施設です。ラーケーションプログラムも充実しています。

募集予定のイベント情報

- ・「ガイドウォーク～森のお散歩～」(土日祝日 所要時間 1時間 定員 10名 無料 要申込)
- ・「八ヶ岳いきもの観察会」(植物や鳥などをテーマに 所要時間 3時間 定員 10名 無料 要申込)
- ・「てくてく八ヶ岳～スポット地区を巡るフットパス～」(八ヶ岳南麓を散策 定員 10名 無料 要申込)



山梨県・清里にある清泉寮は1938年、ポール・ラッシュ博士によつて日本聖徒アンデレ同胞会の青少年指導訓練所（清泉寮キャンプ場）として建設されました。

現在、240ヘクタールの広大な敷地の中に清泉寮本館・新館、清泉寮自然学校、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター、清泉寮やまねミュージアムなどの施設があります。広々とした牧草地、森の向こうに雄大にそびえる富士山・八ヶ岳・南アルプスを楽しみながらゆつくり滞在して学び遊べる空間となっています。



清泉寮やまねミュージアム

開館日 5～10月 土・日・月・祝日・夏休み期間
※平日は団体専用
11～4月 土・日・祝日・年末年始
※平日は団体専用

1998年春にオープンした日本で唯一のヤマネの博物館です。日本固有種で国の天然記念物に指定されているニホンヤマネ。体長8cm・体重18gほどの大きさで、夜行性の哺乳類です。冬眠するときには体をまんまるくして眠る姿や木の枝を逆さまになりスルスル走り回る姿などが人気のヤマネ。写真やぬいぐるみなどを使ってヤマネのことを紹介している施設です。

募集予定のイベント情報

- ・オリジナル缶バッジづくり
(随時 所要時間 5～10分 費用 300円)



森で遊ぶ 森に泊まる!

トヨタ白川郷自然学校

<https://toyota.eco-inst.jp/>

〒501-5620 岐阜県大野郡白川村馬狩 223

TEL : 05769-6-1187 (受付時間 9:00 ~ 18:00) FAX : 05769-6-1287



世界文化遺産・白川郷と
日本三霊山・白山をのぞむ

2005年に開校したトヨタ白川

郷自然学校は白山国立公園を背後にしたがえ、世界遺産合掌集落を眼下に望む山間にあります。ホテルが付いた自然学校で、だれでも遊べて泊まります。

食事は飛騨地方のものをはじめとする厳選食材を使ったフレンチレストラン「ラ・リヴィエール・ブランシュ」でお召し上がりいただけます。

個人でも
団体でも楽しめる!

ご家族・ご友人等個人での利用はもちろんのこと、企業研修や教育旅行、青少年旅行、グループ旅行などにご利用いただけます。

催事ホールでは、自然体験プログラムや講演会、イベント、セミナーなどが開催可能です。

運営団体について

トヨタ白川郷自然学校を運営するNPO法人白川郷自然共生フォーラムは、地域、NGO、企業が三位一体となって地球環境を取り巻く課題に取り組む、珍しい組織形態のNPO法人です。三者のそれぞれの強みを生かし、環境教育の普及・啓発及び、地元白川村・幅広い地域の自然環境保全に貢献しています。

レーションできるプログラム

- ・「朝の森の散歩」 9:30 ~ 10:30
(対象 自然学校宿泊者 定員 15 名 参加費無料 要申込)
- ・「朝メシ前の昆虫ハイク」 7/23 ~ 8/28 6:00 ~ 7:30
(定員 4 組 20 名 参加費 1980 円 要申込)
- ・「渓流でイワナ獲り」 7/18 ~ 8/27 10:00 ~ 13:00
(定員 4 組 20 名 参加費 小学生以上 3200 円 3 才以上 1500 円 3 才未満無料 要申込)
- ・「センサーカメラで動物ウォッチング」 土曜祝前日 15:30 ~ 17:00/ 翌日 8:30 ~ 9:30
(定員 3 組 15 名 参加費 3 才以上 3500 円 / 人 3 才未満無料 要申込)
※夏休み期間催行なし

他、夏休み限定プログラムなども多数準備されています。



冒険・暮らし体験で大きな成長!

ホールアース自然学校



<https://wens.gr.jp>

〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野 165

TEL: 0544-66-0152 FAX: 0544-67-0567



富士山の裾野まで見渡せる里山。田植えの時期になれば逆さ富士を見ることができ、美しい田園風景に出会えます。静岡県富士宮市に本校を構えるホールアース自然学校は、1人ひとりが「人・自然・地域の共生する暮らし」の実践を通じて、感謝の気持ちと誇りを持って生きている社会を目指しています。個性的なスタッフたちもそれぞれが、見たり、触れたり、嗅いだりと、実際に「体験」して日々自然を味わっています。



大自然と向き合う



日本を代表する山・富士山に一度は登りたい! という方も多いのではないだろうか。すぐふもとを拠点とするホールアース自然学校富士山本校は、完全少人数制の手厚いサポート体制で、富士登山が初めての方でも楽しく充実した時間を過ごしながら登頂を目指します。

また、登るだけでなく富士山噴火によって創り出された洞窟・樹海を探検するコースは人気ナンバー1。ダイナミックな富士山の自然を満喫し、自然の神秘を体感できます。子どもにとっても大人にとっても、大自然と向き合う冒険は大きな挑戦。自信が持てるようになると新しい挑戦への意欲も湧いてきます。

富士山の恵みを味わう

ホールアース農場では山・谷・川・森といった里地の複雑な自然生態系の中で、有機野菜・米の生産をしながら、食育プログラムや加工品の製造もおこなっています。また、野生動物による被害の問題においてスタッフが狩猟者となり、大人から子どもまで幅広い年代の方を対象に、ジビエ料理教室やシカ革クラフト教室等を開きこの問題を知ってもらうための活動もおこなっています。

人と社会と自然がバランスをとって共存していくため、保護するだけでなく恵みをいただいて活用する体験ができる場です。

ホールアースの全国拠点

ホールアース自然学校は、福島・新潟・静岡・岐阜・沖縄の5地域、8か所の拠点でそれぞれの地域特性を活かした活動を展開しています。詳細はホームページでご確認いただき、お近くの拠点での活動にぜひご参加ください。(一部施設は個人での宿泊も可能。)

<https://wens.gr.jp/about/branch/index.html>





の1年

これまでとこれから

2020年度の概要

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画していた多くの事業が中止もしくは規模縮小となりました。これにより団体運営に対しても大きな影響があったことは事実です。一方で、このような状況下でもJEEFは新たな取り組みを行ない、今後の活動に大きな可能性を見出すことができました。

ひとつは自然学校をはじめとした全国の環境教育実践者及び研究者のみならずとの関係性を再構築するとともに、環境教育及び自然体験活動の重要性を外部に対して発信したことです。具体的には新型コロナウイルス感染拡大に関する自然学校等への影響調査を自然体験活動推進協議会、日本アウトドアネットワークと共同で2回実施し、調査結果を公表、関係省庁等に要望書を提出しました。また、上記2団体と連携して「自然体験活動・自然教育・野外教育・環境教育を実施している事

業体における新型コロナウイルス対応ガイドライン」を作成し、全国の自然学校等に公開しました。さらにクラウドファンディング「自然学校エイド基金」を立ち上げ、約1千万円のご寄付をいただいて全国の自然学校等の支援をいたしました。

自然学校エイド基金 結果ご報告

たくさんのご支援、ありがとうございました！

結果発表	期間: 7月1日～10月16日 (116日間)		4 質の高い教育をみんなに
	目標: 1,000万円 寄付者数: 708名 寄付金額: 10,227,500円 (目標達成！)		

応援メッセージ

子ども達が豊かな経験が出来るように、これからも長く沢山の子どもが参加出来ますように。

子供達の未来のために、応援しています！

子どもたちの教育で、人格を育むには自然と触れ合うことは不可欠であると思っています。

自然学校を必要とする子どもたち、親、そして学生たちのために、活動が続きますように。

子どもの頃、自然学校で様々な経験をさせていただきました。自分の原点とも言える自然学校を心より応援しています。

夏にキャンプに参加させていただいた後、おかげさまで息子は学校に行かれるようになりました。自然体験の力を改めて感じています。

自然学校の存在により、多くの人が地域で・地域から学びながら、活動を広げています。

本当にたくさんのメッセージを頂きました！ありがとうございます！

自然学校エイド基金

2020年7～10月にかけてクラウドファンディング「自然学校エイド基金」を立ち上げ、1,000万円以上の寄付が集まった。写真は寄付者に送った結果報告で、寄付者からの自然学校を応援するメッセージなどを紹介。

オンラインでの清里ミーティング

12月12日全体会2『世界の環境教育実践から学ぶ』より。スウェーデン、アメリカ、岐阜、広島をオンラインで結んで海外の環境教育を紹介。



生きものと気候変動

森へ行こうよ！

私は長い間森で動物たちの暮らしを調べてきました



市民のための環境公開講座

2020年度はオンラインで9回開催。写真は9月16日開催『もっと山や森の中へ』（講師：動物学者・「けもの塾」塾長／今泉忠明氏）より。

自然の中で出会った動物やこれまでの研究、氏が監修している『ざんねんないきもの辞典』に掲載されている生き物の話などをまじえながら、自然の中で過ごすことの大切さから地球温暖化に至るまで幅広い内容を講義。

コロナ禍により実施形態をオンライン開催に切り替えた結果、参加者が大幅に増えた事業もあります。市民のための環境公開講座では参加者が前年の数倍に増え、清里ミーティングでは海外から参加する方もいました。また、このようなオンラインのイベントを多数開催することでJEEF内でオンラインでのイベント企画・運営のノウハウを蓄積することができました。

2021年度に向けて

依然としてコロナ禍の影響は続きますが、昨年度に培った自然学校等とのネットワークやオンライン開催のノウハウを今年度は如何なく発揮する年になりたいと思います。

自然学校等への影響調査も引き続き実施する予定です。

2022年度、JEEFは創立30周年を迎えます。次の30年に向けてJEEFが更なる飛躍ができるよう、一層のご支援をお願いします。

文責：伊地知 透（JEEF）

海とさかな

自由研究・作品コンクール

JEEF × ニッスイ



インタビュー

JEEF
鴨川 光



お話を伺った方

日本水産株式会社
CSR 部広報課
遠藤 純子さん



<https://www.umitosakana.com/>

企業インタビュー

日本水産株式会社

未来を支える子どもたちの 発見や体験を応援したい

ニッスイの愛称で親しまれる水産・食品加工会社・日本水産株式会社は、海の環境保全や食品ロス削減を中心にさまざまなCSR活動に取り組まれています。

今回は、JEEFが昨年から体験学習の企画に関わり、2021年で第40回を迎える「海とさかな」自由研究・作品コンクール（主催：朝日新聞社、朝日学生新聞社協賛：日本水産株式会社）について、CSR部広報課の遠藤純子さんにお話を伺いました。

「海とさかな」自由研究・作品コンクールが始まった経緯を教えてください。

40年前、当社の広報室（お客様相談室）に、福島県の山の中にある小学校に通っている5年生の少女からお手紙が届いたそうです。そこには、『私の学校は山の中にあります。これから缶詰の勉強をすることになりました。けれども山の中で調べるにも何もなくて調べられませんのでお手紙を書きました。』という書き出しで、缶詰の種類がどのくらいあるのか、原料の魚はどんなところろで、どんな海で、どんな船が捕っているのですかといった質問が要領よくまとめられていました。

それを見た相談室の社員が関連する資料を送ると、夏休みが終わったところにビーズ細工で作られたカモメの親子と魚が送られてきて、『ビーズをお礼として入れます。ちよつと失敗したけどもらってください。』というお手紙がついていたそうです。

その少女の心配りに感動をした相談室の社員が調べた結果、小学校の水産業の授業に対して日本水産として何かお役立ちができるのではないかと、海とさかなとわたしたちに関する小冊子を作成して全国の小学校に送るようになりました。それをきっかけに朝日学生新聞社さんなどに動いていただきこのコンクールが生まれました。

聞き手：鴨川 光（JEEF）

第39回
研究部門

農林水産大臣賞
「謎だらけエビヤドリムシ」
二石 寛士さん 当時6年生

第39回
研究部門

日本水産株式会社賞
「お魚さん、おいくつですか？」
林 凜太郎さん 当時6年生



—— たった一人の少女がきっかけだったということですが、現在のコンクールはどのような形になっているのでしょうか。

大きく分けると「研究部門」と「創作部門」に分かれます。さらに、研究部門の中に「観察図」と「自由研究」、創作部門の中に「絵本」、「工作」、「作文」、「絵画」という区分があつて、全部で6部門あります。人気があるのは、取り組みやすさもあつて絵画部門ですね。

—— 作品のクオリティが本当に高くて、細かいところまで観察していることに驚かされますし、部門がたくさんあるので作品の幅があつておもしろいですよね。遠藤さんの中で特に印象に残っている作品はありますか。

直近のものだと、昨年（第39回）の作品、いろいろ魚の耳石を調べた「お魚さん、おいくつですか？」という研究がありました。ひとつひ

とつの耳石を几帳面に絵を描いて、耳石の形や大きさをきちんと仮説を立てて調査していて、びっくりしましたね。

—— 以前、過去の作品を水族館スタッフの方にお見せしたら、研究対象がマニアックすぎると驚かれていました。そういったものも含めて、毎年3万件近い作品が届くのはすごいですよね。
応募促進のためにどのようなことをされているのでしょうか。

出張授業と体験学習を実施しています。昨年まではJAMSTEC（海洋研究開発機構）での体験学習や、日本水産学会などに講師を出していただき、全国の小学校に直接伺って出張授業を行っていました。昨年は対面での実施が難しかったので、JEEFさんに企画いただいたオンライン体験学習という形で海をテーマとしたワークショップを提供しました。



——オンラインにしたメリットはどのようなものがありましたか？

対面イベントだと会場近郊の子ども以外は参加しづらいのですが、オンラインにすることによって離島や海外からも参加ができるようになります。さらに、全世界の子どもたちが参加できるような、グローバルなコンクールにできたらと考えています。

——SDGsの4番に「質の高い教育をみんなに」と挙げられています。海外駐在の方のお子さんとか、病院にいらっしゃるお子さんとか、「みんな」の枠から外されてしまっていることがあると思うんです。それがオンラインになったことで、いろいろなところに届けられる可能性が出てきました。

そうですね。これまで手が届かなかった子ども達にも参加してもらいたいです。

——今年で第40回を迎える「海とさかな」ですが、今後のビジョンを教えてください。

グローバルな展開はもちろん、協賛という立場ではありますが、もともと日本水産の色を出していければと考えています。「海とさかな」が始まった当時から現在まで広報部門がこのコンクールを担当しています。ニッスイがCSRに取り組みを始め、JEEFに協力をいただくようになった昨年から「サステナビリティー」の視点が加わりました。それまでも出張授業などで環境教育的なことはやっていたのですが、よりその要素が強まった印象です。SDGsがこれだけ身近になつてきた中でポジティブな変化と捉えています。

——社会的にもSDGsや環境教育のニーズが強まっている中で、私達に期待されるのはどういったことでしょうか。

一民間企業の立場では、今の先生方や小学生が求めるものが全くわからないので、そういったところを教えていただけるのは有難いです。そして、やはり企業と子どもたちをつないでいただけたらいいですね。

——そこは私たちも担いたい部分ですし、子どもたちがなんとなくコンクールに参加するのではなく、自分からやりたくなるようなきっかけをつくりたいと思っています。

こうやって続けていったら、このコンクールから世界的な科学者が出るかもしれないですね。

——第40回ということは初年度に10歳だった子どもが50歳になっているわけですから、専門家になった人もいるかもしれないですね。

研究部門には、毎年違う生きものを研究してエントリーしてくれる子どももいます。来年も出ずと、

第39回
創作部門

農林水産大臣賞

「ばあちゃんの網おこし」

山下 和香さん 当時 6 年生



長期的な計画で取り組んでいるのだと思います。そういう子たちに将来何になりたいですかと聞くと、JAMSTECに入りたいと言います。日本水産も候補に入れてほしいですけど（笑）。

——応募作品を見ると、コンクールによって突き動かされてどんどん海のことを調べて、さらに好きになる、将来もその業界に関わりたと思うきっかけになっていると実感しています。ありがとうございました！

第38回
創作部門

日本水産株式会社賞

「海とさかな」

中田 小晴さん 当時6年生





企業インタビュー

三菱地所株式会社

丸の内からSDGs！ 大手町・丸の内・有楽町地区を舞台に サステナブルなアクションを推進する 大丸有SDGs ACT5

——はじめまして。本日はよろしくお願いたします。

大手町・丸の内・有楽町地区（以下、「大丸有エリア」）を舞台にSDGs達成に向けた活動を推進するプロジェクト「大丸有SDGs ACT5」が展開されていますが、私がこのプロジェクトを知ったきっかけは丸ビルで見かけたお弁当ガラの回収ボックスでした。お弁当を買うというタイミングで働く方もリサイクル、環境問題への気付きが生まれ、素晴らしいプロジェクトだと思いました。

「大丸有SDGs ACT5」の活動のひとつである「丸の内エコ弁プロジェクト」です。株式会社ヨコタ東北が製造するP&Pリパック

「コロナ感染拡大の影響により私たちのライフスタイルも大きく変化しました。東京のビジネスの中心である丸の内では今どのようなことが起きているのでしょうか。」
大手町・丸の内・有楽町地区を舞台にサステナブルなアクションを推進する「大丸有SDGs ACT5」について三菱地所株式会社サステナビリティ推進部の長井頼寛さんにお話を伺いました。

SDGs ACT5プロジェクトの
発足の経緯についても教えてください。

三菱地所は東京駅前の大丸有エリアにおいて複数の施設を管理運営しています。また、大丸有エリアには約4,300事業所、約28万人のワーカーが集積しているといわれています。その「まち」に集う人々の多様なリソースを掛け合わせ、SDGs達成に向けて私たちが何か出来ることがあるはずという発想がありました。面的なまちづくりをやっている中で、拠点を置く企業も含めたムーブメントを起こすことができるのではないかと。そして我々一社だけで活動するのではなく、共創を生み出す

——環境福祉事業でもあるんですね。働く人、お弁当を提供する人、町ぐるみの活動ですね。大丸有

聞き手：中地 愛（JEEF）



くみ”を作りたいという思いから
地方地域と一次産業に強い農林中
央金庫、日本経済新聞社、都市開
発を推進している私たち三菱地所
が集い、それぞれの持つ持っている強み
ノウハウを出し合い、この三社が中
軸の実行委員としてプロジェクトが
スタートしました。

——プロジェクトはどのように進められているのでしょうか。

SDGsが目標としている17つの
ゴールから我々として取り組みたい
テーマを5つ設定し（1「サステナ
ブルフード」2「気候変動と資源循環」
3「WELL・BEING」4「ダイ
バーシティ&インクルージョン」5「コ
ミュニケーション」）テーマごとに丸
の内エリア内外の複数のパートナー
と企画を検討し推進しています。

プロジェクトの一例をご紹介します
すと、地方の農産物を東京行きの
高速バスの空きトラックに積んで、
都心で販売する「バスあいのり便」
という事業があります。その中で、
下り便を活用したサーキュレーショ
ンの実証に取り組みました。

東京から生分解性ストロー等を
同じく空きトラックに積み、長野
県内の堆肥舎で堆肥製造を行ない、
その堆肥を活用して生産した野菜
を都市が消費することで、都市と
地域が連携した循環モデルに取り
組みました。その他、新型コロナ
ウィルス感染拡大の影響を受けて、
販売の機会が減り、行き場を失っ
た水産物を食べて漁師さんを応援
するプロジェクト『漁師さん応援
プロジェクト』などを農林中央金
庫と進めています。このほかに複
数のアプローチでSDGsアクショ
ンが創出されるプロジェクトを企画
しています。

——「大丸有SDGsACT5」は多様なステークホルダーの方が

繋がりが、お互いの想いに寄り添う
企画が実施されているのですね。
SDGsゴール達成に向けた地方
と都心の好循環を生み出している
プロジェクトから多く学ばせてい
ただきました。エリアを訪れた私
たちもアートや食など楽しみなが
ら参加ができるのも魅力的ですね。
私たちがすぐ始められそうなこ
とはありますか？

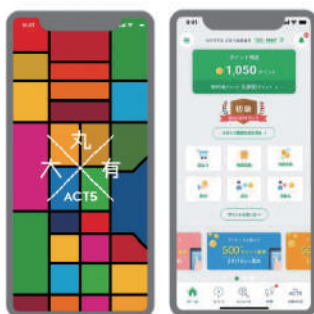
この今年5月にスタートした
「ACT5メンバーポイント」は携
帯にアプリをダウンロードすると、
エコバックやマイボトル、着なくなっ
た衣類の持参、地産地消マルシェで
のお買い物など該当エリア内でS
DGs活動をすることでポイント
が獲得でき、貯まったポイントでサ
ステナビリティに配慮した商品と
の交換、またポイントの寄付など
に利用ができます。これにより個々
人のSDGs活動を後押しし、街
としての大きなムーブメントに繋
がっていくことを願っています。ぜ
ひご参加いただければ幸いです。

——SDGsアクションが起これるように参加させていただきたい と思います。ありがとうございます！

App Store 用 QR コード



Google Play 用 QR コード



▲ポイントアプリ画面イメージ ※今後変更になる可能性があります。



▲ポイントアプリの3つの特徴



阿部治さん 退職記念インタビュー これまで・これからの環境教育

JEEF専務理事の阿部治さんが2021年3月末に立教大学を退職しました。長年にわたり環境教育の普及に取り組まれてきた阿部治さんに、これまでの取組やこれからの環境教育についてお聞きしました。



聞き手：加藤 超大 (JEEF)

——ご退職おめでとうございます。今回は環境教育と出会ったきっかけやこれからの環境教育に求められることなどを聞かせてください。はじめに、自然環境や教育に興味を持ったきっかけを教えてください。

私は新潟県の自然が豊かな所で育ちました。子どもの頃から自然が好きで、特に鳥や動物が大好きでした。このことが私の環境教育の原点です。将来は自然保護や野生動物

物に関わる仕事がしたいと考え、野生動物のことを学ぶために東京農工大学に進学しました。大学時代は環境学とシカやクマ、カモシカなどの生態調査や保護・管理について学びました。また、自然保護活動にも関わるようになりました。これらの活動を通じて、私のように自然や環境のことを好きな子どもを育てたいという思いから環境教育に関心をもつようになりました。

——大学卒業後はどのような活動に取り組んでいたのでしょうか？

筑波大学大学院で学際的に環境科学を学び、環境教育の教授に指導を仰ぎました。大学院修了後に日本学術会議・環境教育小委員会を幹事としてお手伝いする機会を得て、人文・自然・社会分野の錚々たる先生方と一緒する機会がありました。そこで、日本で環境教育を確立すべきだという先生方の情熱を感じ、私もやっ

てみようと思えました。筑波大学で環境教育以外の分野で専任講師となりましたが、環境教育にどうしても携わりたかったことから埼玉大学に移りました。情報系科目の担当が業務でしたが、1989年に日本の大学では初めての教員単独による環境教育の授業を開講しました。



幼少期
(小学1年生)



カモシカ調査 (大学生)



調査実習の様子
(大学院生)



研究室の仲間
(大学院生)

清里でのゼミ合宿の集合写真
(埼玉大時代)





日中韓三力国環境大臣会合
(2018年)

日本人で初めての WEEC
(世界環境教育会議) での
招待基調講演 (2019年)



「JEEFとの出会いも
その頃からでしょうか？」

1987年の「第1回清里
フォーラム（現・清里ミーティ
ング）」に参加したのがきっかけ
です。翌年からは実行委員の
一人として日本型環境教育の
ビジョンづくりに奔走しまし
た。清里ミーティングを通じ
て、日本に自然系の環境教育
を広げようとの情熱を持った
沢山の方々と出会ったことが、
その後の私を決定づけてくれ
たと思っています。

— その後は、日本環境教育学会の設立やIGES（地球環境戦略研究機
関）環境教育プロジェクトの設立、IUCN（国際自然保護連合）教
育コミュニケーション委員会への就任、国連ESDの10年の提案、
ESD-Jの設立、ESD活動支援センターの設立など日本における
環境教育の普及と国際発信・国際ネットワークの構築に取り組まれて
きましたが、印象に残っていることはありますか？

清里フォーラムをきっかけ
に環境教育学会を設立したこ
とやIGESのプロジェクト
リーダーとしてアジア太平洋
地域の環境教育戦略を策定し
たこと、ESDの10年の提案・
推進、日中韓環境教育ネット
ワーク（TEEN）の提案・設
立などです。これらの会議や
調査で50数か国を訪問してい
ますが、そこでの人や自然と
の出会いも楽しい思い出です。

— これからの環境教育にはどのようなことが
求められると思いますか？

1970年代、90年代
と二度の大きな環境ムーブ
メントがありました。いず
れも一過性で終わってしま
いました。気候危機に代表さ
れる今は第三のムーブメン
トですが、人類に与えられ
た最後のチャンスだと思いま
す。この状況を打破するた
めには、社会構造そのもの

を変革しなければなりません。
その点において、人々のライ
フスタイルを変えるときにも、
その基盤である社会の仕組み
の変革につながる環境教育が
非常に大切です。そのために
は主権者として社会に主体的
に参画する力を育むことが環
境教育に求められています

私と他者（自然、人、社会）を（空
間・時間を超えて）つないでくれる
もの、二つの「そうぞうりよく」（想
像力と創造力）を育んでくれるのが
環境教育だと思っています。私に
とってその原点は「センス・オブ・
ワンダー」であり、「センス・オブ・
ヒューマン」です。この二つが私の
生きる力の源泉です。

— 最後に、阿部さんにとっての
環境教育とは何かを教えてください！

阿部治ヒストリー

- 1955年（0歳）新潟県塩沢町（現・南魚沼市）で生まれる
- 1979年（24歳）東京農工大学農学部環境保護学科卒業
- 1982年（27歳）筑波大学大学院環境科学研究科修了
- 1986年（31歳）筑波大学講師、日本学術会議・環境教育小委員会幹事
- 1987年（32歳）第1回清里フォーラム参加
- 1988年（33歳）埼玉大学助教授、89年に講義「環境教育」開講
- 1990年（35歳）日本環境教育学会設立、翌年に事務局長就任
- 1992年（37歳）地球サミットに参加、日本の環境レポートの「環境教育」項目作成、JEEF設立
- 1998年（43歳）地球環境戦略研究機関（IGES）環境教育プロジェクトリーダー就任（～2004）
- 2000年（45歳）日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）を提案・設立
- 2002年（47歳）立教大学教授、政府と共に国連ESDの10年をヨハネスブルグサミットに提案
- 2003年（48歳）ESD-J（持続可能な開発のための教育推進会議）設立、代表理事（～現在）
- 2005年（50歳）国連ESDの10年開始（～2014）、同ボン中間会議アドバイザー就任
- 2007年（52歳）立教大学ESD研究センター（現：ESD研究所）設立、センター長（所長）（～2021）
- 2009年（54歳）日本環境教育学会会長就任（～2015）
- 2012年（57歳）リオ+20に参加、公式サイドイベント等で講演
加藤超大が阿部治ゼミ参加、優秀な成績で卒業
- 2014年（59歳）国連ESDの10年最終年会議にて公式サイドイベント開催
- 2015年（60歳）TEMM Environment Award（日中韓環境協力賞）受賞
- 2016年（61歳）ESD活動支援センターが設置され、センター長（～2020）
- 2017年（62歳）環境省 環境保全功労者表彰
- 2018年（63歳）全国ESD自治体会議（現：ESD/SDGs自治体会議）開催（～現在）
- 2020年（64歳）日本自然保護協会 日本自然保護大賞特別賞沼田真賞受賞
- 2021年（65歳）立教大学定年退職、同大名誉教授に就任

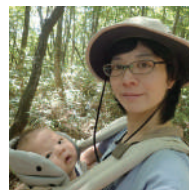


自然学校の台所



シンプルなおはんと 循環型の暮らし体験

みなさんが幸せを感じる瞬間は、どんな時ですか？ 美味しいものを食べる時、という方も多いのでは。くりこま高原自然学校（以下…くりこま）は、自然環境と共生する豊かな暮らしを実践する自然学校です。拠点を置く宮城県栗原市はお米農家が多く、自然学校スタッフも、地域の農家さんの田植えや稲刈りを手伝うこ



塚原 茉衣子さん
くりこま高原自然学校



ともあります。

くりこまの食事の役割といえば、なんといってもお米です。おかずはお米に合うものを選びます。夏の定番はイワナの炭火焼き。自然学校で飼っている鶏の卵、季節の地元野菜、お肉は市販のものがほとんどですがなるべく地元産を買うようにしています。鶏は野菜くずを食べるので生ごみが減りますし、鶏糞は畑の肥料になります。最後はお肉として、命をいただきます。暮らしの中での循環や役割がわかりやすいので、キャンプに来た子どもたちが世話をする機会を作っています。

お米は、カマドや飯盒で参加者が炊きます。参加者には、体験から学んだことや得たことを、日常や災害時に実践してほしいと思っています。東日本大震災のときには、くりこまのキャンプに来たことのあるお子さんが、電気やガスの使えない避難生活を「キャンプのときみたいだ」と話して、家族の励みになったそうです。

くりこまの食事は、シンプルにお

いしい料理を意識して作るようにしています。季節の野菜をたくさん使ったおかず、石窯ピザ、栗原の郷土料理である「ミョウガの葉焼き」をおやつにしたり。小麦粉を練って、ミョウガの葉で包んで焼くので簡単です。そのため参加者のお母さんが、おうちでも作るようになったそうです。山へ遊びに来て心と体が解放されると五感が研ぎ澄まされ、凝った料理でなくてもすごくおいしく感じるのかもしれない。非日常の特別な日の食事は記憶に残りますから、いい思い出になつてほしいと思っています。

他の自然学校では自給自足やオーガニックにこだわるところも多いですが、栗駒山は環境が厳しいので、畑などを作っても通年で自給自足できるほどは育ちません。そこは無理せず農家さんや地元の力を借りて、一番おいしい「環境」を作ろうと心がけています。東北にはいい食材がたくさんありますから。栗駒山の天然水と、薪で炊いたつやつやのお米を食べに来てください。



ジャパンGEMSセンター
科学と数学の偉大な冒険

第33回

おかげさまで20周年！

子どもたちとワークショップをする中で感じたことを発信したいと始めたこの連載も、早いもので5年目となります。今シリーズではワークショップの中でよく受ける質問について、僕がどのように考えているかお答えします。

きえるって
むしろいかも!?

ピンチはチャンス

新型コロナウイルスがいまだに猛威を振るっていますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。こんな大変な状況の中、ジャパンGEMSセンター設立20周年を迎えます。2001年にJEEF内に誕生した小さなセンターですが、多くの方と関わり、支えられながらさまざまなチャレンジをしてきました。

このコロナ禍でも、対面グループワークをベースにしているGEMSは大ピンチに陥る…かと思いきや、身近なものを使って探究をつくるというGEMSの特徴がむしろ強みとなって、新しいワークショップが次々に生まれていきました。

例えば、親子講座では各家庭で教材を準備していただき、同じようなものを持つているようでもみんなちよつとずつ違う道具や材料で実験するという「違い」を楽しむワークショップ。実験の目的は同じなのに、使っているものが違うから結果も微妙に違うという設定は、みんなでピタリ同じ結果が出るよりも、「なんで〜？」と子ども達の知的好奇心を刺激します。「浮く？沈む？」

というプログラムでは、水を張ったボウルや水槽にいろいろなものを入れて、水に浮くか沈むかを検証するのですが、一人の子がジャガイモを入れて「あつ！しずんだ！」と言ったのを聞いて、他の子が「じゃあサツマイモなら…？」とキッチンにダッシュ。このように「オンラインでもハンズオン（体験型）！」が今のGEMSセンターの合言葉です。

質の高い教育を「みんな」に

オンラインでもう一つチャレンジしているのは、これまで手の届かなかった子ども達にGEMSを届けるということです。地方の子達だけでなく、病院に入院していたり、海外にお住まいでなかなか対面のワークショップに参加できない子ども達ともオンラインであればつながることが出来ます。

特に、コロナの影響で外部と遮断さ

れてしまっている病院内の子ども達は、毎回GEMSの時間をとても楽しんでくれています。病院内に持ち込めるもので実験の続きができるので、あの後こんなことやったよ！とお手紙をくれたりもします。僕は普段あまり意識しなくなってしまうことかもしれないですが、明日も楽しいことが待っているという感覚は、子ども達にとつてとても大切なものです。

SDGsのゴール4で掲げられている「質の高い教育をみんなに」。この「みんな」の枠をどこまで広げられるかが、いまGEMSセンターの目指していることです。コロナ時代になって、これまで僕達が想定していた「みんな」の外側にいる子ども達に気がつきました。そして、きつとまだつながれていない層の子ども達もいるでしょう。GEMSセンターが20年で積み上げてきたものを、これから多くの子ども達に提供していきます。

鴨川 光

(かがわ ひかる)

1987年茨城県生まれ。ジャパンGEMSセンター主任研究員。早稲田大学大学院教育学研究科修了後、2013年6月より現職。子どもの思考力や社会性の発達について研究している。ワークショップやボランティアを通して子どもたちと一緒に成長中。



ジャパンGEMSセンター
<https://japangems.org/>



JEEFはカリフォルニア大学理事会ローレンスホールオブサイエンスより公認ライセンス契約の許諾を受け、ジャパンGEMSセンターを運営しています。



幅広い市民に向けた学びの場

「市民のための環境公開講座」

損保ジャパン、(公財)SOMPO 環境財団および(公社)日本環境教育フォーラムの3者共催で、NPO/NGO と企業のパートナーシップ協働事業の先駆けとして、1993年から一般市民向けに環境に関する講座を開講しています。

※今年度は2021年9月～12月に開講予定です。
詳細は7月初旬にSOMPO環境財団HPでお知らせします。



昨年のダイジェストを
ご覧いただけます

▼2020年度の講座より（一部抜粋）

気候危機・コロナ危機と社会の大転換



江守 正多 氏
国立環境研究所
地球環境研究センター
副センター長

私たちの選択が未来を変える エシカル消費のすすめ



末吉 里花 氏
一般社団法人エシカル協会
代表理事



木を植える人を育てる



「CSOラーニング制度」



(公財)SOMPO環境財団では、大学生・大学院生を対象に、環境分野のCSO

(Civil Society Organization：市民社会組織、NPO/NGOを包含する概念)で8か月間のインターンシップに参加できる「CSOラーニング制度」を実施しています。本制度は2000年に始まり、環境CSOとともに、持続可能な社会に貢献できる人づくりを目指しています。2019年2月からは、新たに日本環境教育フォーラムのインドネシア事務所と協働で、ジャカルタでのプログラムをスタートし、これまで2期38名が修了しました。2021年2月からは第3期生が活動を開始しています。

「100年も先のことは、わからない」
なんて言うのはやめよう。
そう決めました。



サントリー 天然水の森 PROJECT.

サントリーの天然水は、森に降った雨が、
およそ20年かけて
森の大地でゆっくり濾過され、
ミネラル分を授かって
おいしくなった地下水。
健やかな森の力を借りて生まれます。
天然水を未来につなぐために、
森を元気にする。
それが私たちの大事な仕事になりました。
これからも、ずっとずっと
水と生きていきますように。



サントリー「天然水の森」は
15都府県21カ所、総面積約12,000ha。
これは、国内工場で汲み上げる地下水量の
2倍以上の水を育む広さです。
(2019年6月現在)

水と生きる **SUNTORY**

天然水の森

検索



共生社会
COMMUNITY CARE



環境
ENVIRONMENT



芸術・文化
CULTURE



交通安全
TRAFFIC SAFETY



ボランティア
VOLUNTEERS



人材育成
EDUCATION

明日へ、つづく、つないでいく。

美しい自然を、人間は創りだすことができません。

現代のこの素晴らしい文明も、私たちの力だけでは築けません。

いま、ここにあるすべては、過去より受け継いできた大切なもの。

この財産を豊かに育み、子どもたちの未来に手渡していくことが、
いまを生きる私たちの役目ではないでしょうか。

トヨタは「環境」「交通安全」「人材育成」をはじめ「社会・文化」など
幅広い分野で、さまざまな社会貢献活動を進めるとともに、
社員のボランティア活動を積極的に支援しています。

日本で、世界で、地球市民の一員として、
豊かな社会づくりとその持続的な発展のための活動に取り組んでいます。

日本環境教育フォーラムを支援してください

JEEF の活動は国内から海外へも広がり、地域・分野共に広がりを見せています。
かけがえのないこの地球で、次の世代も心豊かに、笑顔で暮らしていけるように。
ご寄付・入会していただくことで、より多くの人々に環境教育を提供できます。

会員として支える



<https://www.jeef.or.jp/joinus/>

機関誌「地球のこども」年2回お届け・JEEF 主催事業割引・メルマガへの情報提供など特典があります。

- ・ 普通会員 年会費 6,000 円
- ・ 学生会員 年会費 3,000 円
- ・ 団体普通会員 年会費 20,000 円 入会金 10,000 円
- ・ 賛助会員 年会費 一口 100,000 円

寄付をして支える



<https://www.jeef.or.jp/joinus/#tab02>

●マンスリー寄付

クレジットカードで毎月同じ額を寄付する仕組みです。

●一般寄付

任意の額を寄付する仕組みです。

クレジットカード・銀行振り込み・郵便振替でうけたまわります。

電力会社の切り替えで支える



<https://hachidori-denryoku.jp/>

環境に配慮した電気を提供する電力サービス「ハチドリ電力」。NGO などへの支援を無理なく続けられる仕組みを提供しています。電気使用料の1%がJEEFに、さらに1%が自然エネルギー発電所の基金に支払われます。

●申し込み方法

1. 今お使いの電力会社からの検針票をお手元に準備する
2. ハチドリ電力のホームページより、必要事項を入力
3. 寄付先に JEEF を選び、申し込む

ハチドリ電力の仕組み



- ※ 1 ハチドリ電力は非化石証書（再エネ指定）を調達することで、「CO2 排出係数ゼロ」を達成する予定です。
- ※ 2 非化石証書（再エネ指定）の購入により、実質的に自然エネルギー 100% の電気の供給を実現します。
- ※ 3 ハチドリ電力は自然電力の取次事業者です。実際の電力供給は小売電気事業者である自然電力株式会社により行われます。
- ※ 4 電気料金の1%が別途支援額になります。
- ※ 5 「CO2 ゼロ」とは、「CO2 排出係数ゼロ」のことを指します。

パソコンの購入で支える



<https://zeropc.jp/>

「ピープルポート」が製造・販売する、環境負荷ゼロを目指すエシカルパソコン「ZERO PC」。廃棄されたパソコンを修理・再生し、販売しています。製造過程で難民支援も行なっています。

売上の3%（毎月21日は5%）がJEEFに寄付されます。

●購入方法

1. ZERO PC のホームページより購入したいパソコンを選ぶ
2. 注文画面「想う PROJECT 支援先」の中から JEEF を選ぶ



寄付についてのご相談は、ご遠慮なく担当までご連絡ください。

寄付担当 吹留（ひいどめ）

電話：03-5834-2897 メール：kifu@jeef.or.jp

様々な形でご支援いただくことができます

JEEF と一緒に、魅力的な学びの場を増やしていきましょう



山の中にポツンと自動販売機があると
どうしてこんなところに、と
違和感を感じる。

それなのに、街の中で暮らしていると
あちこちにただずむ自動販売機に
違和感を覚えなくなる。

そういうものだ、と割り切って
違和感センサーを閉じている。

当たり前が、当たり前でなくなる。
思うようにいかなくて、失敗する。
それはとても素敵なことだ。

自然の中で、心が動く体験をしよう。

『地球のこども』編集チーム

鴨川 光 / 垂水 恵美子 / 山口 泰昌 / 吹留 純子